

話題の掘り下げ

同じ悩み抱える人集う



この日は認知症の人は参加しなかったが、家族を含めて、誰でも参加できる
Dカフェ・ラミヨ=東京都目黒区で

カフェ・ラミヨ」だ。Dカ
フェのDは、認知症を表す
英語「Dementia」
の頭文字で、「誰でもOK」
の「D」もある。
コーヒー代三百円で認知
症の人や家族に限りず、介
護を終えた人や介護職、医
療職、認知症を知りたい人

本人も家族も気分転換

イサービスと違い、夫婦で
参加できるのもいい」と話
した。

この日は認知症の人の家
族がリハビリなどの情報交
換をしたり、昔の写真を見
て脳を活性化する回想法の
話題で盛り上がったり。

「必ずしも認知症にどうわ
れず、いろいろな地域の課
題を語り合つ場になれば」
と竹内さん。来年度からは、区内の別の場所でも力

ながら、やりがいを感じる
ことで笑顔になり、生き生
きと過ごせる場」「認知症
の人と地域住民が交流する
場」などの自己評価が寄せ
られた。調査対象の大半が
運営資金に困っていた。

厚生労働省は本年度から
の「認知症施策推進五か年
計画」で認知症カフェの普
及・推進を掲げ、計画推進
の予算約三億円の一部で、
カフェ運営を支援する。

福井や愛知にも
認知症カフェでは、新たな動きもある。

福井市のJR福井駅前の複合施設アオツサでは、世界アルツハイマーデーの二十一日、認知症カフェ「トマリギ」が開かれる。認知症の啓発に取り組む看護師、里裕一さんが代表のNPO法人「福井キャラバンメイト」などの運営で、定期開催を目指す。認知症の人と家族の会愛知県支部は、同県東海市でカフェを十月から開く。介護者の息抜き、相談の場であると同時に、誰もが集える場にしたいという。

認知症の人や家族が集まって悩みを相談したり、介護の情報を得たりする「認知症カフェ」が、広がっている。公益社団法人「認知症の人と家族の会」によると、ここ数年で急増しているといい、国も家族支援の一つとして推進している。(佐橋大)

「認知症カフェ」

八月中旬、東京都目黒区、東急東横線祐天寺駅近くの住宅街。目黒認知症家族会「たけのこ」世話人、竹内弘道さん宅の二階を改装した喫茶スペースに、男女十五人が集まつた。たけのこが七月から月二回ペースで開く認知症カフェ「D

など誰でも参加できる。「認知症を自身の問題として考える人が増えれば、認知症の人が地域で暮らし続けられる」と竹内さん。こでは介護する側、される側でなく、一人の人として参加し、認知症の人もできる範囲で役割を果たす。

この日は猛暑で認知症の人は来なかつたが、前回の七月下旬には二人が参加。普段家で介護されるときとは違つた生き生きした表情に、一緒に来た家族も驚いたという。若年認知症の夫(63)を介護する女性も「夫の気分転換になりそう。デ

ジ意見・情報は chousa@chunichi.co.jp

◇
など誰でも参加できる。

「認知症を自身の問題として考える人が増えれば、認

認知症の人と家族の会が昨年度、二十八カ所の認知症カフェを調査した。家族会、地域住民が集つ場それの発展型や、高齢者施設併設型などがある。基本的

に有料で茶菓を提供し、

来場者はお茶を飲みながら会話する。食事を出した

り、認知症の人が接客したり、専門職が介護などの相談に乗るケースも。NPO法人、社会福祉法人、家族の会、市町村など、運営主

体は多様だ。

「認知症の人が社会とつ

フェを開く計画だ。